

2023 年 12 月 27 日

株式会社 聚楽

創業 100 周年を迎える聚楽(じゅらく)

“^{すだちょう}須田町食堂”創業ヒストリー第 2 弾を発刊

外食産業のチェーン展開化と“聚楽”の誕生

じゅらく
聚楽グループ

『伝統を守り挑戦を続ける』をビジョンに、ホテルやレストラン事業を展開する株式会社 聚楽（本社：東京都千代田区、取締役社長：加藤 治、以下「当社」）は、2024 年 3 月 10 日に創業 100 周年を迎えます。創業者である加藤清二郎は、東京で簡易洋食「須田町食堂」を開業し、綿密な計画と独自の商法のもと 1943（昭和 18）には最大 89 店舗まで広がっていきます。また、“聚楽”の社名は創業 10 周年の際に従業員 700 名による社内公募で決まりました。創業から戦前までの軌跡を当社が発刊している情報誌「ことのほ」で第 2 弾を作成しましたので、聚楽グループの各ホテルやレストランで無料配布します。第 1 弾は WEB でも閲覧可能です。《<https://www.hotel-juraku.co.jp/info/kotonoha/>:「ことのほ」Vol.20》

取材及び冊子郵送ご希望の方は(株)聚楽（じゅらく）
info@hotel-juraku.co.jp までお問い合わせください。



■準備と決意の“ノート”

創業家の蔵の整理中に偶然発見され、須田町食堂開業前に書いたと思われる「ノート」には、創業者加藤の手記が書きつづられていました。その中に「使用人の待遇法に就て」と書かれた部分があります。お客様に喜んでもらうのはもちろんですが、加藤は従業員への心遣いを大切にしていました。その一つに「蓄音機」の話があります。手記には「蓄音機を買い求め、昼間は時として店に之を用い客の興を誘ひ、夜仕事を終へてから、店員をして自由に使わしめ、慰めしむる。（中略）仕事と遊びと一緒にせざる様、働く時には一心不乱に働き、遊ぶ時には何事も忘れてよく遊び、休む時にはよく休むという様な良

き習慣を店員に付けしむる様、指導教育せねばならん。」とあります。開業前にも関わらず、共に働く仲間を思いやり、令和の現代においても共感させられる内容となっていました。

■実家からの借金返済要求に返信した“手紙”

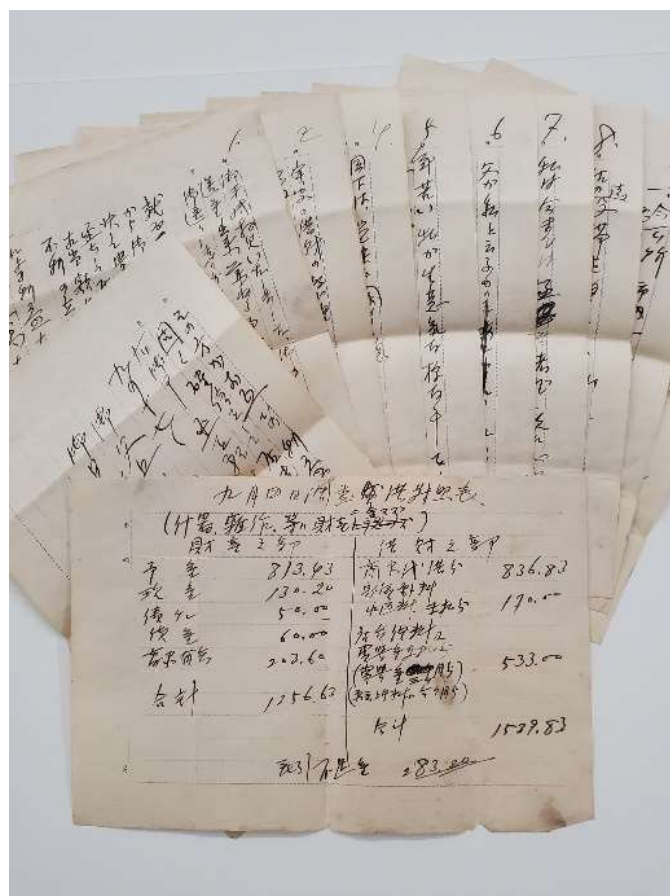
1924（大正 13）年 3 月 10 日に開業した須田町食堂の営業時間は、11 時～23 時まで。売上も上々で連日の盛況ぶりは東京中に広まっていきました。しかしそれと同時に問題となっていたのは借金の返済と、繁盛がゆえの什器・備品の補充、設備の改修費でした。そんな中、実家から借金返済要求の手紙が届きます。この時、本人が返信した手紙が残っています。

- 全額は返せないから三百円だけ送金する
- 本郷バーと競争していて利益は案外少ない
- 家業が苦しいのも承知しているが、こちらも苦しい（大正 13 年 9 月現在 283 円不足）
- 店を増やす計画中に送金を迫られると全てが遅れる
- 来年末には千五百円あるいは二千円を誓って送る

日付は一号店開店から半年後の 9 月 17 日でした。

自身も苦しいけれど、実家のことも思いやりながら二号店を開業させるのです。

写真：返信は 9 枚にも及んで書かれており、開業後の資金難を示す貸借表も記されていた



■須田町食堂チェーン展開の“実行”

一号店開店からわずか 8 か月後の 1924（大正 13）年 11 月 20 日、「須田町食堂京橋営業所」を開店。運営と仕入れは信頼のおけるスタッフに任せ、自身は創業前に考えていた「チェーン展開」を実行に移します。「流行の最初というものは仕事がしやすいものだ。この潮に乗ってグングン進んでいけば発展は瞬く間だ。この間に機先を制して発展しておき、流れが緩くなった時にぐっと引き締めて内容の充実を計るべきだ。」この方針のもと 1924（大正 13）年から 1930（昭和 5）年までの間に、銀座・上野・浅

草・水天宮・神保町等、合計 25 店舗を展開し、どの店舗も大盛況となりました。

ここで冒頭の「ノート」に目を戻してみると「向こう 5 年間で第一期となし、この間確実な利息以外、断じて他の営業に手を染めぬこと」とあります。この覚悟の通り、創業から 6 年間は須田町食堂だけを展開し、初めから計算されつくされた事業拡大だったことが分かります。

写真：1927（昭和 2）年「須田町食堂営業本部」を設け、一括で仕入れと仕込みを行い、原材料費の削減を行いながら利益を上げていった。



■人々が集まって楽しむ事：“聚楽”

1934（昭和9）年、須田町食堂創業10周年を迎えるにあたり新店の名称を従業員700名から公募することとなりました。応募総数は1,400件にものぼりその中から選ばれたのが、人々が集い楽しむことを意味する「聚楽」という名前でした。この時決まった名前が現在の社名となっています。そして同年、初めて“聚楽”の名前が使われた本邦初の食堂デパート「新宿聚楽」が開店します。開店前から驚異的な評判が巻き起こり、開店時間前には長蛇の列となりました。その長さは玄関口から電車通りまでおよび、交通整理のため巡査が駆けつける事態となりました。

一般食堂販賣品の一部

お飲みものと 甘きもの

洋食の部

コ	ー	ヒ	ー	5	カレーライス	15
み	つ	豆	...	8	ポークカツ	15
ぞ	う	に	...	8	ヤサイサラダ	15
し	る	こ	...	8	エビフライ	20
開		子	...	8	オムレツ	20
ッ	ダ	水	...	10	オムレツ	20
ホ	ッ	ン	...	10	チキンライス	20
レ	モ	ン	...	10	ピブスターキ	25
ア	イ	ス	...	10	ピブスターキ	25
洋		酒	...	15	ポークソテー	25
生	ビ	ール	...	15	ポークソテー	25
エ	ビ	ス	...	38	メンチライス	25
金	盃	正	...	20	ランチ	30
白	鹿	一	...	25	上ランチ	50

う 親 カ 天 玉

な 子 ツ 子

井 井 井 井 井

三 二 二 二 二

五 五 五 五 〇

井ものゝ部

支 芙 五 館 中 五

那 美 色 華 色

御 華 色 飯 飯

定 餐 ば 井 井

食 餐 ば 井 井

三 三 三 二 二

〇 〇 〇 五 五

支那料理の部

鍋 街 柳 蒲 御

写真：当時のメニュー表（単位：銭）

株式会社 聚楽

創業者 加藤 清二郎

（1898年4月8日～1982年9月24日）

【前号：創業編のあらすじ】

学業優秀も進学はせず、海鮮問屋から陸軍へ。相場で大儲けするも株価暴落で借金を背負い込む。樺太で鉄道建設に従事するも稼いだ金をまた相場で失う。堅実な商売を起こそうと東京で大衆食堂に着目、資金調達の為、再び樺太で肉体労働従事中の1923年9月1日関東大震災発生。東京へ戻り、実家から材木の提供を受け、簡易食堂“須田町食堂”を開店する。





■じゅらく情報誌「ことのは」設置場所

【宮城県】

■御酒印船 仙台店

【福島県】

■飯坂ホテルジュラク

【新潟県】

■ジュラクスティ新潟

■弥彦山ロープウェイ

■亜麺坊 新潟店

■弥彦桜井郷温泉 さくらの湯

【東京都】

■お茶の水ホテルジュラク

■レストランじゅらく上野駅前店

■須田町食堂 秋葉原 UDX 店

■酒亭じゅらく上野店・お茶の水店

■ブッチャーズ八百八 御茶ノ水店

■ワインバル Viña Vin Vino

■スペインバル El Chateo del Puente

■浅草聚楽

■御酒印船 新宿店

■串揚げじゅらく 上野店・新橋店・アメ横店

■カフェ淡路坂珈琲 お茶の水店

■明神そば きやり 神田明神前店

【群馬県】

■みなかみホテルジュラク

■万座ホテルジュラク

【静岡県】

■伊東ホテルジュラク

【兵庫県】

■神戸ホテルジュラク

■会社概要

株式会社聚楽

【創業】1924（大正13）年3月10日

【資本金】1億円

【代表】取締役社長 加藤 治

【住所】東京都千代田区神田駿河台3丁目4番地龍名館本店ビル9階南

【従業員】正社員570名／パートタイマー450名（2023年4月時点）

【事業内容】都市ホテル・リゾートホテル・各種レストラン

【URL】<https://juraku.com/>

＜本件に関する報道関係からのお問い合わせ先＞

株式会社 聚楽

広報：info@hotel-juraku.co.jp